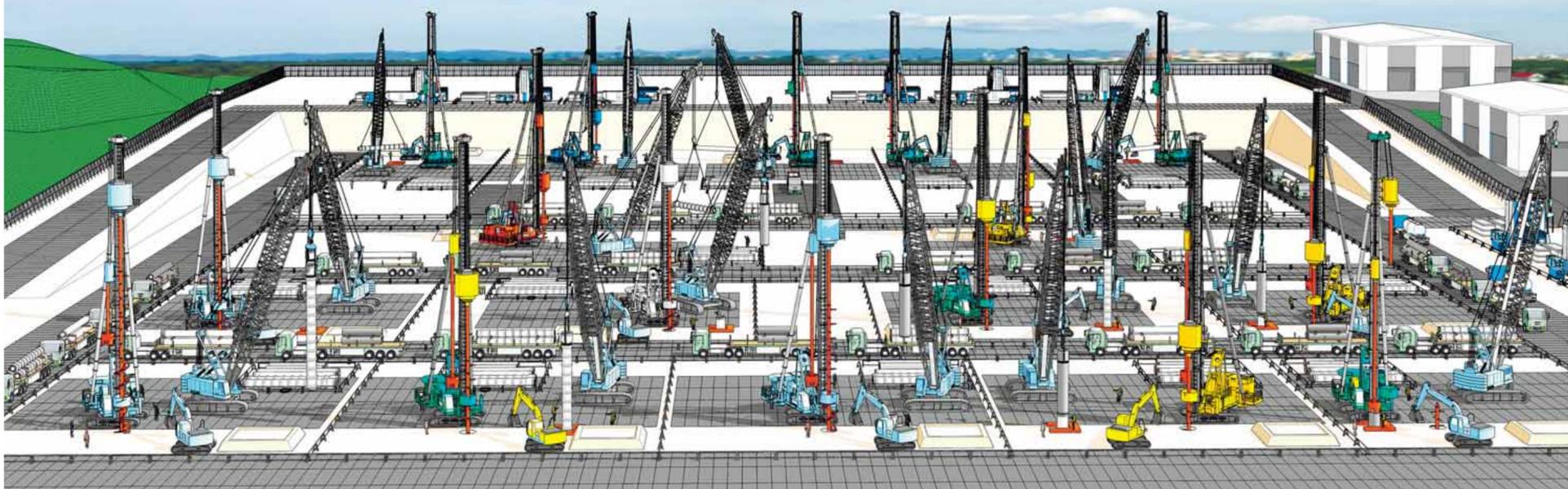


# おかげさまで創業100周年



## くい基礎で社会をささえる総合基礎会社 ジャパンパイル株式会社

基礎杭の構築を通して社会の発展を支えてきたジャパンパイルが、創業100周年を迎えた。基礎工事の発展に貢献してきたオットップ、大同コンクリート工業、ヨーコンの3社の統合で設立した同社は、全ての杭基礎を扱える唯一の総合基礎会社として技術開発に磨きをかけて、国内最大級の支持力を誇る「Smart-MAGNUM工法」を開発するなど新たな挑戦を加速している。黒瀬晃会長兼社長は100年の歴史と今後の経営ビジョンを聞いた。

「これまでの道を振り返って3社が統合して設立したジャパンパイルの原点は、1923年のオットップの創業に遡ります。創業者の武智正次郎は旧京都帝大の土木を卒業して大阪市に「武智工務所」を設立しました。節をこつて高支持力が高まる節杭を開発し、26年に東洋初野田工場の基礎工事に初めて採用され、従来の松杭や角柱状R/C杭に比べて大きな支持力を発揮したことから「武智杭」として急速に普及し、特許は国内のみならず米、英、独、仏、伊など海外にも広がりました。

実業家の原安三郎が総代として静岡県沼津市で34年に創業した大同コンクリート工業は、日本初の遠心成形による中空円筒型R/C杭を開発しました。ヨーコンは新谷泰助が名古屋で58年に創業し、コンクリート杭の製造を始めます。さらに、工法や商習慣の全く異なる場所打ち杭の事業部門を75年に併設し、自家製籠中ものも育て上げました。コンクリート杭と場所打ち杭の二つを扱う企業はその後現れず、それほど画期的なことでした。

前身の3社は杭基礎業界の根幹をなす製品、施工技術を開発し、節杭、遠心成形杭は現在のコンクリート杭を使う建物基礎に不可欠な製品となっています。場所打ち杭は、総合的な設計提案を行う営業に大きく寄与しました。



ジャパンパイル代表取締役会長兼社長 黒瀬 晃氏

## 業界最先端の技術を研究開発

2007年の3社統合の際、それぞれの経営資源を「材料」に新たなビジネスモデルを再構築しました。その後、全ての杭基礎（コンクリート杭、場所打ち杭、鋼管杭）の設計、製造、施工を一貫して提供する「総合基礎会社」として発展してきました。

主力のコンクリート杭部門は、統合以降、一貫して高支持力杭工法の開発に取り組み、専門技術を高めています。06年に「Hyper MEGA工法」、10年に「BASIC工法」、16年に「MAGNUM-BASIC工法」、18年に「MAGNUM工法」を開発し、21年には集大成となる「Smart-MAGNUM工法」をリリースしました。

「これまでの道のりを振り返って3社が統合して設立したジャパンパイルの原点は、1923年のオットップの創業に遡ります。創業者の武智正次郎は旧京都帝大の土木を卒業して大阪市に「武智工務所」を設立しました。節をこつて高支持力が高まる節杭を開発し、26年に東洋初野田工場の基礎工事に初めて採用され、従来の松杭や角柱状R/C杭に比べて大きな支持力を発揮したことから「武智杭」として急速に普及し、特許は国内のみならず米、英、独、仏、伊など海外にも広がりました。

「ソフト」と「パワー」を高める。それまで杭基礎の設計に特化した資格制度がなかったため、まずは「基礎設計」の教科書をまとめることから始めました。基礎分野を代表する研究者や設計事務所と協力してもらい、レベルの高い教科書ができました。これを使い、土質力学や基礎構造の専門知識を持ち、所与の条件下で最適な基礎工法を提案する「建築基礎設計士」の社内資格制度を立ち上げました。現在は「一般社団法人基礎構造研究会」に運営を移管し、社外の人も受験し、資格を取得しています。

Smart-MAGNUM工法は、先端根固め部の径を1〜2倍程度まで拡大することができ、掘削面から杭先端までの杭下根固め長さを0.2倍まで可変することで先端支持力を大きく向上させました。地盤状況によって掘削径、杭下長を選択できる多機能化し、それまでの高支持力杭工法に比べてコスト削減も実現しました。

「具体的などのような効果がありましたか」設計提案をビジネスの根本に据えることで、顧客から工事の依頼を受けたときに、例えばコンクリート杭の依頼でも場所打ち杭などを含めて全ての工

「30年サイクルでビジネスを成長」業界全体では、建築基礎を対象にした研究者の減少が課題です。技術を絶やさないよう、次世代に継承するため、杭基礎に特化した研究所をつくりたいと考えています。そこで研究者を養成したいと思っています。当社が業界の発展に徹底的に取り組むことで社員も会社に誇りを持ち、モチベーションにつながります。

「経営思想や経営方針を教えてください」社長に就任した20年前から基礎建設業の社会的認知度を高めることを考えてきました。それは「ソフト」と「パワー」の二つを強化する必要があります。大学教授や医師が尊敬されるのは高度な知識を併せ持つからで、ソフト面では専門知識が非常に重要になります。杭基礎では設計や工事管理がソフトに該当するため、これらの技術やノウハウを明文化し、誰でも分かるようにしました。

「100年にわたり技術開発と施工品質を支えるDNAは」創業時の経営陣は常に現場に立ち、社会全体の視点で杭基礎に関する問題意識を持ち続け、研究開発し、進取の気風を社風として涵養してきました。その精神は企業理念に掲げる「世界に通じる基礎を作る」「進歩の原点は現場にあり」「仕事を天職として社会に尽くす」の3点に凝縮され、当社のDNAとして引き継がれています。

法を検討し、最適な工法を迅速に提案しています。コンサルティンクの役割を担うことで「杭のことはジャパンパイルに聞こう」という機運ができ、設計の人員を5倍に増やして対応しました。工事の受注も増え、工法を開発するなど施工部門も強化しながら今日のレベルに達しています。

## 集大成の Smart-MAGNUM工法推進